

別

編



出土文字史料



## 木 簡

### ※凡例

< 木簡の上端・下端に切り込みがある

□□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの

□ □ 欠損文字のうち字数の数えられないもの

× 前後に文字のつづくことが内容上推定されるが、折損等により文字が失われているもの

「」 異筆

・ 木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す

### ※型式

011型式 長方形の材

019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの

031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの、方頭・圭頭など種々の作り方がある

032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの

033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの

039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの

051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの

081型式 折損・腐蝕その他によって原形の判明しないもの

091型式 削屑

※記入例

「 枳 文 」

原資料を再調査したものについては、従来の枳文を補訂した部分がある。

再調査については、奈良国立文化財研究所の協力を得た。宮町遺跡については、米原永遠男氏から資料の提供をうけた。

木簡の長さ×幅×厚さ 型式 遺構番号

『典拠』巻数—頁数(号数)

藤原宮跡

橿原市高殿町・醍醐町

一 X □<sup>〔河〕</sup>評柏原里玉作部下 □

(一六一)×一六×四 091 S D 一四五  
『藤原宮木簡—解説』八九頁

二 □河評柏原里

091 S D 一四五  
『藤原宮』一〇一—一四五頁

三 . X □<sup>〔日〕</sup>金刺舎人荒山

□ □ 巳時食酒飯也

(一九三)×(二〇) 087 S D 一七〇  
『藤原宮木簡概報』六一—七頁

平城宮跡 奈良市佐紀町・北新町・法華寺町

四  
・□人□

・□<sup>[相之]</sup>原里人

(六四)×(一八) <sup>087</sup> 『平城宮木簡概報』一三―一八頁

五  
駿河国駿河郡子松郷津守部宮麻呂役荒堅魚拾壹斤拾兩天平宝字二年

<sup>[専または主之]</sup>当  
国司目從六位下息長丹真人大  
郡司少領正六位下金刺舍人足人

三三八×二六×四 <sup>082</sup> 『平城宮木簡概報』一九―二一頁

六  
・<駿河国駿河郡古家郷戸主春日部与麻呂調煮堅魚捌升伍兩<

・<天平宝字四年十月專当  
国司椽從六位下大伴宿禰益人  
郡司大領外正六位上生部□□理  
<sup>[信卿]</sup>

一一〇五×三三三×三 <sup>087</sup> 『木簡研究』九―一八頁

○日絵参照

七  
・駿河国駿河郡玉作郷×

・天平宝字四年十月

(九一)×(二一) <sup>086</sup> 『平城宮木簡概報』四―一九頁

八  
・玉作郷<sup>[戸主玉作之]</sup>

・□□

(一三六)×(一一)×五 <sup>086</sup> 『平城宮木簡二解説』七一―

簡  
木

・駿□

・四連四節

(八八)×二二×五 〇88 S D 二七〇頁  
『平城宮木簡概報』一九一二一頁

二〇 × 広<sup>〔浜カ〕</sup>調煮堅魚捌斤伍兩□ □

養老三年□□<sup>〔月カ〕</sup>

(一七七)×二四 〇86 S D 五七八頁  
『平城宮木簡概報』六十八頁

二 〃 河□ □ □ 馱子大神仲面戸口同□ □ □ □

二七三×二七×五 〇83 六ACC区 木屑・炭屑  
『平城宮木簡概報』一九一三五頁

三 □ 河年魚

(一七五)×(二一) 〇89 S D 五七八〇頁  
『平城宮木簡概報』一一一三頁

三 (墨線) 阿倍枚万呂八

秦已知万呂八

□<sup>〔津カ〕</sup>真<sup>〔羅カ〕</sup>□八

□<sup>〔更カ〕</sup>占真立八

額田乙勝八

□ □ □ 山四

(墨線) 丸部駿河万呂一升二

□乃秋 一升二

山口乙万呂一升二

山口広浜八

水取継成八

茨田弥継八

(墨線) 上毛野力八

□ □

山口広浜八

水取継成八

茨田弥継八

」

」

」

」

(三三四)×(五八)×二一 〇39 S D 三四一〇頁  
『平城宮木簡三 解説』一七九頁

□ □ □ □ 八<sup>〔長カ〕</sup>

□ □ □ □ 山四

」

」

X

秦<sup>〔諸カ〕</sup>□万呂八

□ □ □ □ 八<sup>〔末カ〕</sup>

□ □ □ □ 八<sup>〔長カ〕</sup>

X

□ □ □ □ 八

□ □ □ □ 八

□ □ □ □ 八

□ □ □ □ 八



・荒堅魚六連八節 天平七年十月

三一五×一七×四〇<sub>11</sub> S D 五一〇  
『平城宮木簡概報』二二―二三頁

二九 駿河国駿河郡柏原郷小林里戸主玉作部忍勝調堅魚七連二節

二九七×二二三×二〇<sub>11</sub> S D 五一〇  
『平城宮木簡概報』二二―二三頁

・天平七年十月

○口絵参照

三〇 駿河国駿河郡宇羅郷榎浦里□ □春日部忍麻呂戸春日部国麻呂調堅魚八連八節

三五二×二一七×一〇<sub>11</sub> S D 五一〇  
『平城宮木簡概報』二二―二三頁

・天平七年十月

三一 駿河国駿河郡宇良郷榎浦里戸主弓削部首調荒堅魚六連八節

二八五×二一〇×四〇<sub>11</sub> S D 五一〇  
『平城宮木簡概報』二二―二三頁

・天平七年十月

三二 駿河国駿河郡宇良郷菅浦里戸□□<sup>〔春日カ〕</sup>部麻呂調堅魚七連三節

三七〇×一八×五〇<sub>11</sub> S D 五一〇  
『平城宮木簡概報』二二―二三頁

・天平七年十月

三三 駿河国駿河郡宇良郷菅浦里戸主矢田部猪麻呂調堅魚七連三節

三〇六×一八×四〇<sub>23</sub> S D 五一〇  
『平城宮木簡概報』二二―二四頁

・天平七年十月

二

- 駿河国駿河郡古家郷川津里戸主丈部〔得〕麻呂調荒堅魚八連七節
- 天平七年十月

三三四×三三×四〇、S D 五一〇〇  
『平城宮木簡概報』二二二四頁

三

- 駿河国駿河郡古家郷井辺里戸車以部黒栖調荒堅魚
- 十一斤十兩 天平七年十月

二九六×二八×四〇、S D 五一〇〇  
『平城宮木簡概報』二二二四頁

四

- 駿河国駿河郡古家郷猪津里戸金刺舍人勝麻呂調荒堅魚六連八節
- 天平七年十月

三〇四×三二×四〇、S D 五一〇〇  
『平城宮木簡概報』二二二四頁

五

- 駿河国駿河郡古家郷猪津里戸金刺舍人部大人戸金刺舍〔〕万呂
- 調荒堅魚七連九節 天平〔七〕年十月

三四八×三二×四〇、S D 五一〇〇  
『平城宮木簡概報』二二二四頁

六

- 駿河国駿河郡古家郷井辺里戸春日部高根調荒堅〔〕
- 天平七年十月

二八五×二五×五〇、S D 五三〇〇  
『平城宮木簡概報』二四二四頁

七

- 駿河国駿河郡柏原郷〔〕
- 七連四節

一〇七×一七×三〇、S D 五三〇〇  
『平城宮木簡概報』二四二四頁

木 簡

宮町遺跡

滋賀県甲賀郡信楽町

三〇

- ・ 駿河国駿河郡宇良郷戸主春日部小麻呂戸春日部若麻呂
- ・ 調荒堅魚七連一節 天平十三年十月

『平成五年度紫香樂宮跡関連遺跡発掘調査記者発表資料』  
二七六×二四三 032 S D 1225 東半下層

長岡京跡

向日市・長岡京市・京都市・大山崎町

三

- 柏原郷 □ □ □ 白米五斗

二二三×二八×五 033 S D 1130 一B  
『長岡京木簡』一―二〇二号

三

- 松郷戸 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

(六六)×二三×一 039 S D 1130 一B  
『長岡京木簡』一―一〇五号

# 墨書土器・刻書

『平城宮出土墨書土器集成』I  
奈良国立文化財研究所 一九八三

※凡例

「釈文」

- ・須恵器・土師器の別
- ・器形
- ・記した部位・向き
- ・時期
- ・遺構番号
- ・遺物番号
- ・『出典』—頁数

## 平城宮跡

奈良市佐紀町・北新町・法華寺町

## 一 駿河所

須・坏・体部外面・平城宮東南部排水溝  
『平城宮出土墨書土器集成』I—二六二頁

## 上横山遺跡

小山町竹ノ下

### 二 (墨痕)

上・坏・口縁(体部上半・奈末・SBO五  
表四—一六・『上横山遺跡』—六九頁

### 三 (墨痕)

須・坏・口縁部外面・奈前・SBO九  
表四—三六・『上横山遺跡』—七一頁

### 四 × (へラ書)

須・坏・底部外面・奈後・出土地点不明  
表四—三七・『上横山遺跡』—七一頁

### 五 (墨痕)

須・盤・口縁部下・奈・SBO九  
表四—四一・『上横山遺跡』—七二頁

### 六 (墨痕)

上・坏・口縁内面・不明・SB一一  
表四—四九・『上横山遺跡』—七二頁

### 七 (墨痕)

上・坏・口縁内面/外・奈後・SB一四  
表四—五八・『上横山遺跡』—七三頁

編 八 天 (ヘラ書)

土・坏・不明・奈後・SB二一  
表四一〇九、『上横山遺跡』一七八頁

別

九 (墨痕)

須・坏・口縁外面・奈後・SB二一  
表四一二三、『上横山遺跡』一八〇頁

『上横山遺跡 発掘調査報告書』 小山町教委 一九八三

永原追分遺跡

御殿場市萩原

一〇 = (ヘラ書・焼成後)

土・坏・底部外面・平中・A地区堅穴住  
図一〇一四、『永原追分遺跡』一三七頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七八頁

二 八十 (墨書)

土・皿・体部外面・平中・A地区堅穴住  
図一〇七八、『永原追分遺跡』一三七頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七八頁

三 (千乙) (墨書)

土・坏・体部内面・平前・住居址外  
図一二一三、『永原追分遺跡』一三七頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七八頁

三 (墨痕)

土・坏・体部外面・平前・住居址外  
図一二一七、『永原追分遺跡』一三七頁

四 大 (墨書)

上・坏・底部外面・平前・不明  
図一五六一六、『永原追分遺跡』一三三頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七八頁

五 (今カ) (墨書)

土・坏・底部外面・不明・不明  
図一五一一七、『永原追分遺跡』一三三頁

六 = (刻書・焼成後)

土・坏・底部外面・平前・A地区堅穴住  
図一〇一五、『永原追分遺跡』一三六頁

七 = (刻書・焼成後)

土・坏・底部外面・平前・A地区堅穴住  
図一一一七、『永原追分遺跡』一三六頁

『永原追分遺跡』静岡県御殿場市立南中学校々庭内  
埋蔵文化財発掘調査報告書』 御殿場市教委  
一九七七

『静岡県史』資料編四古代 静岡県 一九八九

宮沢遺跡(市営東グラウンド遺跡) 御殿場市深沢

一六 古

土・坏・底部外面・平前・表採  
『上横山遺跡』一三頁  
『御殿場市史』一一八頁

『御殿場市史』別巻1考古・民俗編 御殿場市史編  
さん委員会 一九八二

イシヤスミバ遺跡 御殿場市神山

一九 十

土・坏・底部外面・平前・不明  
『永原追分遺跡』一五頁

上原遺跡<sup>うえのはら</sup> 裾野市深良字上原

二〇 十

土・坏・底部外面・平前・四分堅穴住居跡  
『裾野市史』資料編考古一四八九頁

○同様な墨書片他に十数点あり

『裾野市史』第一巻 資料編 考古 裾野市史編さん委員会 一九九二

日吉廃寺跡 沼津市大岡

三 足

土・坏・不明・表採図二一六  
『日吉廃寺塔址整備事業報告書』一三七頁

沼津市史跡整備事業報告一  
『日吉廃寺塔址整備事業報告書』沼津市教委  
一九七九

御幸町遺跡 沼津市御幸町

三 玉

土・坏・体部外面・奈後、平初・二五六住居跡  
『御幸町遺跡』III一八頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七七頁  
○同じ墨書他に一点あり

三 厨

土・坏・底部外面・奈後、平初・三一六住居跡  
『御幸町遺跡』III一八頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七七頁

三 巾

土・坏・体部外面・平前・不明・不明  
『御幸町遺跡』III一八頁  
『静岡県史』資料編四古代一〇七八頁

三五 寺

土・坏・体部外面・平前・二五四住居跡 覆土上  
『御幸町遺跡』Ⅲ―一八頁  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁

三六 厨

土・坏・底部外面・平前・一〇L、I  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁  
○同じ墨書他に二点あり

三七 八

土・坏・体部外面・奈後カ・三二七住居跡  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁

三八 万

土・坏・底部外面・平初カ・九F  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七八頁

三九 田

土・坏・体部内面・平・一〇LⅡ―IV  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七八頁

四〇 山

土・坏・体部外面・奈後・一九九住居跡 覆土  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七八頁

四一 百

土・坏・体部外面・平前・八一住居跡  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七八頁

沼津市文化財調査報告書 第二五集  
『御幸町遺跡第三次発掘調査概報』 沼津市教委  
一九七七

藤井原遺跡 沼津市下香貫

三二 女 (底部外面)

・女塩坏(底部内面)

土・坏・底部内外面・奈末、平前  
『資料館だより』二―五 墨書土器図  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁  
○底部内面の「女」と「塩坏」は異筆

三一 女

土・坏・底部内外面・奈後・図二六一六  
『藤井原遺跡』Ⅲ―一六頁  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁

三〇 女

土・坏・体部外面・奈後・不明図二六一七  
『藤井原遺跡』Ⅲ―一六頁  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁

二九 南

土・坏・体部外面・奈後・不明図二六一八  
『藤井原遺跡』Ⅲ―一六頁  
『静岡県史』資料編四古代―一〇七七頁

沼津市文化財調査報告 第一一集  
『藤井原遺跡第三次発掘調査概報』 沼津市教委  
一九七七

二ツ洞遺跡

沼津市足高尾上

吳

〔細川カ〕

土・坏・体部外面・平・三号住居Ⅱ二〇九一  
『広合遺跡・二ツ洞遺跡』一九九一―一九九二頁

毛 富

土・坏・体部外面・平・三号住居Ⅱ二〇九一三  
『広合遺跡・二ツ洞遺跡』一九九一―一九九二頁

沼津市文化財調査報告書 第五二集  
『広合遺跡(e区)・二ツ洞遺跡(a区)発掘調査報告書』沼津市教委 一九九一

瀬戸川遺跡

清水町八幡

三 馬庭

土・坏・体部外面・平・六号住居  
『瀬戸川遺跡』一二七・三二頁

○「馬」の墨書他に二点あり

『瀬戸川遺跡―第二次調査報告書―』  
建設省中部地方建設局・静岡県教委・清水町教委  
一九九〇

